

保育士・幼稚園教諭養成系における「音楽理論」の 必要性と授業展開についての一考察

河原田 潤

キーワード／音楽理論・子どもの歌・「音楽」を苦手になっている学生や初歩的段階の学生

1. はじめに

保育現場において子どもが「歌」を通じて学ぶものは多い。もちろん「歌」に親しみ、楽しみながら互いにコミュニケーションを取ることは言うまでもなく、「歌う」ことによってメロディやリズムを感じ、歌詞を発声することから「ことば」を覚え、学ぶ。すなわち「歌う」ことから子どもは「音楽」の要素だけでなく「体育」「国語」「道徳」等も同時に学習・体得することになる。

保育者はこのように保育現場において不可欠で大切な「歌う」ことを実践するために、日頃から「歌」についての教材研究やピアノ等の伴奏手段について充実を図るために努力を怠らないようにしなければならない。

教材研究やピアノ等の伴奏手段の際、保育者は「楽譜」を用意し、それに従って準備をするわけであるが、「楽譜」を読み取る知識、いわゆる「音楽理論」（注：「楽典」とも言われるが、本論では総称して「音楽理論」と記する）を理解している度合いによって1曲を仕上げ上げるスピードは人によってまちまちである。音楽が得意な保育者は円滑に準備が出来、逆に不得意な保育者はある程度時間を掛けないと仕上がりが難しくなる。

楽譜を手にしてから子どもと一緒に歌うまでの時間は、他の活動の教材等の準備を考えると、効率よく短い時間で準備出来るに越したことはない。つまり「音楽理論」の知識がある程度のレベルまで習得出来ていれば、ピアノ等の伴奏手段を練習する時に自らを助け、公立を上げることに違いないのである。

保育士・幼稚園教諭養成系では、表現系において「音楽理論」の内容を伴う授業が開講されている。ここで学生は初歩的なことから応用的なレベルまでの「音楽理論」を学ぶわけであるが、受講する最初の時点ですでに得手・不得手の格差が生じている。これは、

- ・「音楽」が好き・嫌い
- ・高校まで音楽系の部活動その他課外活動を行っていたかどうか
- ・高校の授業で「音楽」を選択していたかどうか

等の理由がある。特に高校の授業で「音楽」を選択しなかった学生は、小中学校の義務教育からのブランクが生じ、さらには「音楽」「音楽理論」の経験・知識は義務教育修了ごから習得していない者がほとんどということになり、苦手意識がそこから生まれて来るとも考え得る。

そうなると、保育士・幼稚園教諭養成系として行う「音楽理論」の授業としては、初歩的

な段階から始めてからどの程度の段階を一つの目安として展開すれば良いのか、本論では保育現場で用いられている「歌」と楽譜について傾向を確認し、その中でも主として「調号と調性」「長調と短調」「拍子」「コード奏法」に関する授業展開について考えていきたい。

2. 「子どもの歌」の傾向

保育士・幼稚園教諭を目指す学生に必要とされる「音楽理論」の目安として、保育現場で歌われている「子どもの歌」がどの程度のレベルなのかを知ることは必要であると考え。そこで保育現場で活用されている数ある歌本の中より、一般的な例として『こどものうた100』（チャイルド本社）を取り上げ、これに掲載されている「曲目」「調性」「拍子」を調べ、表に表してみた。

	曲名	作詞者	作曲者	調号	調号の数	調性	拍子
1	ちょうちよう	不詳	スペイン民謡	—	0	ハ長調	2/4
2	チューリップ	近藤宮子	井上武士	—	0	ハ長調	2/4
3	ぶんぶんぶん	村野四郎	ボヘミア民謡	b	1	ヘ長調	2/4
4	びよんびよんかえる	不詳	不詳	b	1	ヘ長調	2/4
5	こいのぼり	近藤宮子	不詳	#	2	ニ長調	3/4
6	かたつむり	文部省唱歌	文部省唱歌	#	2	ニ長調	2/4
7	てんとうむし	清水あき	小林つやえ	—	0	ハ長調	2/4
8	あめ	杉山米子	小松耕輔	—	0	ハ長調	2/4
9	おかあさん	西条八十	中山晋平	b	1	ヘ長調	2/4
10	せっけんさん	まどみちお	富永三郎	b	1	ヘ長調	2/4
11	めだかのがっこう	茶木滋	中田喜直	#	2	ニ長調	4/4
12	おたまじゃくし	望月クニ	田中銀之助	#	2	ニ長調	2/4
13	せんせいとおともだち	吉岡治	越部信義	—	0	ハ長調	4/4
14	ひらいたひらいた	不詳	不詳	—	0	イ短調	2/4
15	お花がわらった	保富康午	湯山昭	b	1	ヘ長調	2/4
16	きのいいあひる	高木義夫	ボヘミア民謡	b	1	ヘ長調	3/4
17	おかあさん	田中ナナ	中田喜直	#	2	ニ長調	4/4
18	とけいのうた	筒井敏介	村上太朗	#	2	ニ長調	4/4
19	小鳥のうた	与田準一	芥川也寸志	#	2	ニ長調	4/4
20	かわいいかくれんぼ	サトウハチロー	中田喜直	b	1	ヘ長調	2/4
21	つばめ	則武昭彦	安藤孝	b	1	ヘ長調	2/4
22	あくしゅでこんにちば	まどみちお	渡辺茂	#	2	ニ長調	2/4
23	あめふりくまのこ	鶴見正夫	湯山昭	#	2	ニ長調	2/4
24	かえるのがっしょう	岡本敏明	外国曲	b	1	ヘ長調	2/4
25	かいぶつだぞ	峰陽	外国曲	—	0	ハ長調	4/4
26	春	吉田トミ	井上武士	b	2	変ロ長調	2/4
27	はをみがきましよう	則武昭彦	則武昭彦	—	0	ハ長調	2/4
28	たんじょう日	与田準一	酒田富治	—	0	ハ長調	2/4
29	とんぼのめがね	額賀誠志	平井康三郎	—	0	ハ長調	2/4
30	たなばたさま	種籐はなよ、林柳波	下總 皖一	b	1	ヘ長調	2/4
31	ありさんのおはなし	都築益世	渡辺茂	b	1	ヘ長調	3/4
32	みずあそび	東くめ	滝廉太郎	#	1	ト長調	2/4
33	とんでったバナナ	片岡輝	桜井順	—	0	ハ長調	4/4
34	ずうじのうた	夢虹二	小谷肇	—	0	ハ長調	2/4
35	せんろはつづくよどこまでも	佐木敏	アメリカ民謡	#	1	ト長調	4/4
36	おつかいありさん	関根栄一	團伊玖磨	#	2	ニ長調	2/4
37	海	天野蝶	一宮道子	#	2	ニ長調	2/4
38	ひまわり	加藤明德	渡辺茂	—	0	ハ長調	2/4
39	なみとかいから	まどみちお	中田喜直	—	0	ハ長調	4/4
40	トマト	荘司武	大中恩	b	1	ニ短調	2/4

保育士・幼稚園教諭養成系における「音楽理論」の必要性と授業展開についての一考察

	曲名	作詞者	作曲家	調号	調号の数	調性	拍子
41	たなばたまつり	えほん唱歌	えほん唱歌	b	1	二短調	4/4
42	しゃぼんだま	野口雨情	中山晋平	#	2	二長調	2/4
43	せみのうた	佐藤義美	中田喜直	b	1	へ長調	4/4
44	こおろぎ	関根栄一	芥川也寸志	—	0	ハ長調	2/4
45	お月さま	深尾須磨子	箕作秋吉	—	0	ハ長調	2/4
46	月	文部省唱歌	文部省唱歌	b	1	へ長調	2/4
47	まつぼっくり	広田孝夫	小林つや江	b	1	へ長調	2/4
48	やまのおんがくか	水田詩仙	ドイツ民謡	#	1	ト長調	2/4
49	もみじ	えほん唱歌	えほん唱歌	#	2	二長調	2/4
50	いもほりのうた	高杉自子	渡辺茂	b	2	変ロ長調	4/4
51	うんどうかい	則武昭彦	則武昭彦	b	1	へ長調	2/4
52	うんどうかい	増子とし	本多鉄磨	b	1	へ長調	2/4
53	まっかな秋	薩摩忠	小林秀雄	b	1	へ長調	4/4
54	たき火	巽聖歌	渡辺茂	—	0	ハ長調	2/4
55	メリーさんの羊	高田三九三	アメリカ曲・複製説	b	1	へ長調	2/4
56	小さい秋みつけた	サトウハチロー	中田喜直	#	1	ホ短調	4/4
57	きくの花	立野勇	本多鉄磨	—	0	ハ長調	2/4
58	おおきなたいこ	小林純一	中田喜直	b	1	へ長調	2/4
59	おおきなくりのきのしたで	不詳	不詳	—	0	ハ長調	4/4
60	北の国から	則武昭彦	則武昭彦	—	0	ハ長調	4/4
61	あわてんぼうのサンタクロース	吉岡治	小林亜星	b	1	へ長調	2/2
62	雪	不詳	不詳	b	1	へ長調	2/4
63	ジングルベル	安西愛子	ジェームズ・ロード・ヒアボント	#	1	ト長調	2/4
64	ペンギンちゃん	まどみちお	中田喜直	#	1	ト長調	4/4
65	まめまき	えほん唱歌	えほん唱歌	#	2	二長調	2/4
66	雪のこぼろず	村山寿子	不詳	b	1	へ長調	2/4
67	春よこい	相馬御風	弘田龍太郎	#	3	イ長調	2/4
68	うれしいひなまつり	山野三郎	河村光陽	b	3	ハ短調	2/4
69	たこのうた	文部省唱歌	文部省唱歌	b	1	へ長調	2/4
70	やぎさんゆうびん	まどみちお	團伊玖磨	b	1	へ長調	2/4
71	サンタクロース	水田詩仙	フランス民謡	b	1	へ長調	4/4
72	一ねんせいになつたら	まどみちお	山本直純	b	1	へ長調	4/4
73	お正月	東くめ	滝廉太郎	b	1	へ長調	4/4
74	雪のペンキやさん	則武昭彦	安藤孝	b	1	へ長調	2/4
75	ずいずいずつころばし	わらべうた	わらべうた	—	0	イ短調	2/4
76	とおりやんせ	わらべうた	わらべうた	—	0	イ短調	2/4
77	思い出のアルバム	増子とし	本多鉄磨	—	0	ハ長調	6/8
78	そつぎょうしきのうた	天野蝶	一宮道子	—	0	ハ長調	4/4
79	もりのくまさん	馬場祥弘	馬場祥弘	—	0	ハ長調	2/4
80	はたけのポルカ	峯陽	ポーランド民謡	b	1	へ長調	2/4
81	おもちゃのチャチャチャ	野坂昭如	越部信義	—	0	ハ長調	4/4
82	うちゅうせんのうた	どもろぎゆきお	峯陽	—	0	ハ長調	4/4
83	ふしぎなポケット	まどみちお	渡辺茂	#	1	ト長調	2/4
84	てをつなごう	中川李枝子	諸井誠	#	2	二長調	2/4
85	いぬのおまわりさん	佐藤義美	大中恩	#	2	二長調	4/4
86	おはようのうた	高すすむ	渡辺茂	#	2	二長調	2/4
87	おすもくまちゃん	佐藤義美	磯部俣	b	2	変ロ長調	2/4
88	はしるの大すき	まどみちお	佐藤真	b	2	変ロ長調	4/4
89	ごんべさんのあかちゃん	不詳	アメリカ民謡	b	2	変ロ長調	4/4
90	てのひらをたひように	やなせたかし	いずみたく	b	3	変ホ長調	4/4
91	インディアンがとおる	山中恒	湯浅譲二	b	3	変ホ長調	4/4
92	金魚のひるね	鹿島鳴秋	弘田龍太郎	b	1	へ長調	2/4
93	おんまはみんな	中山知子	アメリカ民謡	b	3	変ホ長調	4/4
94	ぞうさん	まどみちお	團伊玖磨	b	1	へ長調	3/4
95	おもちゃのマーチ	海野厚	小田島樹人	b	1	へ長調	2/4
96	やまびこごっこ	おうちやすゆき	若月明人	—	0	ハ長調	4/4
97	アイアイ	相田裕美	宇野誠一郎	—	0	ハ長調	4/4
98	てをたたきましよう	小林純一	チェコ民謡	—	0	ハ長調	4/4
99	むすんでひらいて	不詳	J. J. ルソー	—	0	ハ長調	2/4
100	おかえりのうた	天野蝶	一宮道子	—	0	ハ長調	4/4
101	さよならのうた	高すすむ	渡辺茂	—	0	ハ長調	4/4
102	カレンダーマーチ	井出隆夫	福田和子	#	2	二長調	4/4
103	おなかのへるうた	阪田寛夫	大中恩	#	2	二長調	2/4
104	おへそ	佐々木美子	佐々木美子	#	2	二長調	2/2
105	はしれちょうとつきゆう	山中恒	湯浅譲二	#	2	二長調	4/4

<表 1>

<表 1>から、項目別にまとめてみると、次のようになる。

① 調号の数、調性について

調号（＃・♭）の数	調性	曲数
調号なし	ハ長調	30 曲
	イ短調	3 曲
＃ 1 つ	ト長調	6 曲
	ホ短調	1 曲
♭ 1 つ	ヘ長調	32 曲
	ニ短調	2 曲
＃ 2 つ	ニ長調	21 曲
	ロ短調	0 曲
♭ 2 つ	変ロ長調	5 曲
	ト短調	0 曲
＃ 3 つ	イ長調	1 曲
	嬰ヘ短調	0 曲
♭ 3 つ	変ホ長調	3 曲
	ハ短調	1 曲
＃・♭ 4 つ以上	—	0 曲

<表 2>

② 長調・短調について

長調の曲	98 曲
短調の曲	7 曲

<表 3>

③ 拍子について

拍子	曲数
2分の2拍子	2曲
4分の2拍子	62曲
4分の3拍子	4曲
4分の4拍子	36曲
8分の6拍子	1曲

<表 4>

3. 授業展開についての考察

「音楽理論」の授業を行っていくにあたり、保育現場で対応できる知識について学生が確実に押さえておきたいと思われるポイントを、前述の表から考えていきたい。

① 調号の数、調性について

<表1><表2>から言えることは、

“調号は#・bの数が3つの調まで理解する”

ということである。保育現場で歌われている「子どもの歌」について、調号は多くても#・bが3つまでの曲であり、楽譜についての理解を深めるきっかけとしてはひとまずはここまでを押さえておけば良いのではないだろうか。授業において全ての調号、調性を学ぶのは当然ではあるが、「音楽」を苦手としている学生や初歩的段階の学生は調号が増えるにしたがって混乱してしまう恐れがあるためである。

「子どもの歌」を子どもと共に親しむために、楽譜に触れて「音楽理論」への理解を深めていくならば、まずは調号の少ない調から調号3つまでを確実に理解し、そして応用・発展させながら徐々に全ての調を理解していく方法が良いかと思われる。

またもう一つの考えとして、

“調号は#・bの数が2つの調まで理解する”

と考えても良いかもしれない。それは、調号が3つ以上の「子どもの歌」で日常又は年間行事でよく取り上げられる曲は非常に少ないからである。例えば、<表1>の中では、『うれしいひなまつり』（ハ短調・b3つ）が年間行事の歌として必ずと言って良いほど保育現場で取り上げられるが、その他の曲は保育現場によってまちまちである。ということはまずは

調号が2つまでの調性を理解し、そこから応用・発展させていくことでも学生の理解度を上げていくことに繋がるかもしれない。

② 長調・短調について

<表2><表3>から、長調から成る曲は圧倒的に多い。これは、

長調・・・明るい感じのする響き

短調・・・寂しく暗い感じのする響き

というイメージからも、「子どもの歌」においては長調の曲が多く存在するといった差が生じているかもしれないが、「音楽」を苦手に行っている学生や初歩的段階の学生について考えてみると、長音階に比べて短音階は

- ・自然的短音階
- ・和声的短音階
- ・旋律的短音階

と3種類あり、この構造や響きの理解が難しく感じられているかもしれない。また短調の曲を歌う子ども自身についても、曲の響きや曲の感じを捕らえることが中々難しく、音自体も拾いづらく、歌いづらく感じられているのかもしれない。

ここから考えてみると、長調についてまずは基礎的・基本的な音階の構造を学んで理解をしてから、その応用・発展として短調について理解する方法が良いと言える。

そして前述①と合わせてみると、まず調号の無い「ハ長調」において理解を深め、次に調号が \sharp ・ \flat 1つずつの「ヘ長調」「ト長調」に応用・発展し徐々に難易度を上げていくような手段が得策であろう。

③ 拍子について

<表4>からすると、用いられる拍子の種類は5種類である。それはこの歌本に限ったことではなく、「子どもの歌」の世界で用いられる拍子の種類はほぼこの5種類であろう。

この5種類についても、「単純拍子」である2拍子、3拍子、4拍子系がほとんど全てであり、「複合拍子」である8分の6拍子も、2拍子系として扱う曲が多いことから、「音楽」を苦手に行っている学生や初歩的段階の学生については「単純拍子」をまずしっかり理解し、そのリズムを感じる事が出来るようにすることが重要と言える。

「変拍子」については、「子どもの歌」ではまず使用されないことから「単純拍子」の理解が出来た学生が理解していく形を取るのが得策であろう。

また、「○分の□拍子」の用語についても、「1小節の中に○分音符が□個分ある拍子」であることもしっかり理解させたい。学生が楽譜を読み取りながらリズムを感じるためには不可欠な知識であり、さらに楽譜を書き写す等の場合に、その楽譜を第三者が読み取れるようにするためにも重要な基礎的・基本的知識である。学生の中には単に分数として理解してしまう者が多く、楽譜から表記通りに聴く人に伝えられず誤解を招いてしまうこともある。ゆ

えにしっかり理解させたいと考える。

さて筆者は個人的に、2拍子と4拍子について、

“子どもと一緒に歌う時は、4拍子の曲は2拍子で拍を取っても良い”

と思っている。子どもと一緒に歌う時に、子どもはその曲が2拍子なのか4拍子なのかを感じるよりも、その「歌」について興味や関心を持ち、歌いたいという能動的な気持ちを持つ方が優先されるべきなので、4拍子の曲も2拍子として感じられることがあってもそれは自然な状態であり、その状態で歌を歌い続けても問題は無いと思うのである。

保育者についても、子どもに合図を出したり掛け声を出す時に、「さん、ハイッ！」と当然のように言ったりするが、「いち、ハイッ！」とはあまり言わないだろう。この時に4拍子の歌で4拍子の合図を出すつもりでも、「さん、ハイッ！」は2拍子のカウントであり、子どももそう感じるであろうから、2拍子の進め方でも「歌」は成立する訳である。

しかし、発表会等の学びの場として「歌」や合奏等を演奏する場合は、やはり2拍子は2拍子、4拍子は4拍子の理解として保育者自身も楽譜を読み取り理解し、子どもにも保育上はそう理解させたいものである。あくまでこの案については子どもと「歌」を楽しみ、「歌」に親しむための考えで、「音楽理論」についての提案ではないことをお断りしておきたい。

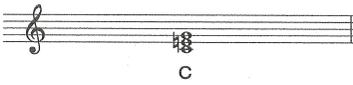
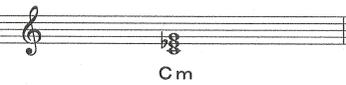
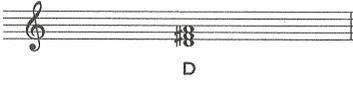
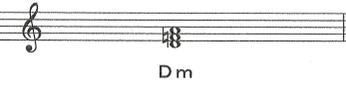
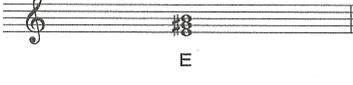
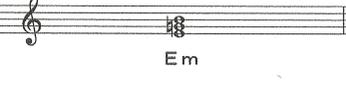
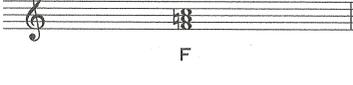
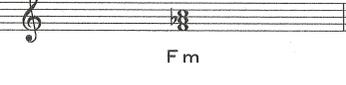
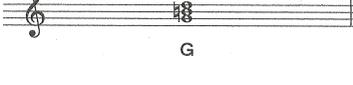
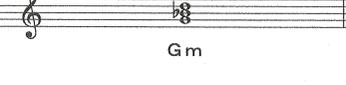
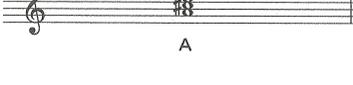
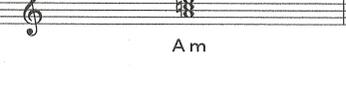
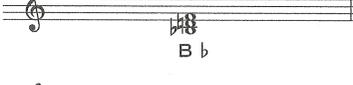
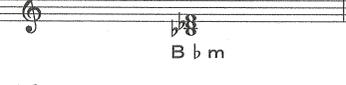
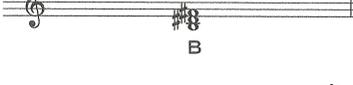
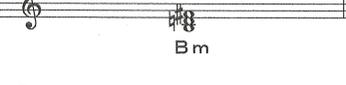
④ コード奏法について

「子どもの歌」を保育現場で子どもと一緒に歌う時、保育者自身がしっかり歌えればリズムを感じながら「手拍子」だけで歌うことは可能であり、保育上何の問題も無い。しかしながら何らかの伴奏（音源）を用いて子どもと一緒に歌うことは、さらに充実させた時間を子どもと共有するために大事であると感じる。そのためにピアノ等を用いて子どもと一緒に歌うことが重要視されている。

ピアノで伴奏する場合、左手が単音、右手も単音の伴奏を聴くより両手の音の数が多くたくさん聴こえた方が良く聴こえるに決まっている。それは音が充実して音楽がより豊かに聴こえるからである。それでピアノを学ぶ場合に各種「教則本」や「練習曲」を用いて、基礎から徐々に難易度を上げて習得しながら「子どもの歌」のレパートリーを身に付けていく訳であるが、「音楽」を苦手になっている学生や初歩的段階の学生については、就職して子どもと一緒に「歌」を歌うまではわずか数年しかなく、その間に基礎も身に付けながらレパートリーも増やしていくのは中々困難である。

そこで「簡易伴奏」としてではあるが、楽譜の小節に音符とは別に表記されている「コードネーム」を読み取り、コードでリズムを取る「コード奏法」で伴奏する技術を「音楽」を苦手になっている学生や初歩的段階の学生に少しでも習得させたいと考える。「コードネーム」がある程度理解出来れば、レパートリーを増やす手助けになるだけでなく、ピアノ等についての苦手意識を少しでも減らすことにも繋がると思うのである。

長三和音（メイジャー・コード）と短三和音（マイナー・コード）

長三和音（メイジャー・コード）	短三和音（マイナー・コード）
 C	 Cm
 D	 Dm
 E ♭	 E ♭ m
 E	 Em
 F	 Fm
 G	 Gm
 A	 Am
 B ♭	 B ♭ m
 B	 Bm

<表 5>

<表 5>は、3つの音から構成される「三和音」で、その中でも「長三和音（メイジャー・コード）」「短三和音（マイナー・コード）」を「コードネーム」として表したものを引用した表である。

「子どもの歌」の楽譜に「コードネーム」が付いていれば、もしくは使われている和音が理解出来れば、曲に用いられているコードを表から読み取り、音を拾っていくことにより比較的容易に伴奏付けをすることが出来る。この場合に「音楽理論」として最低限押さえておきたいことは、

- 根音と完全5度音程の間に、長3度・短3度の第3音が存在して「長三和音（メイジャー・コード）」「短三和音（マイナー・コード）」が成立しているということ
- 伴奏付けを行う時に応用出来るよう、第3音が最低音に設定された場合の「第1転回」、

第5音が最低音に設定された場合の「第2転回」を合わせて理解すること

であろう。この「コードネーム」に沿って和音を繋ぐことが出来れば、伴奏として成立させることが容易になる訳である。

楽譜に表記されている「コードネーム」によっては、根音の上に短7度上の音を付加し、「7」を文字として足した「セブンス・コード」、「aug」を文字として足した「増三和音（オーグメント・コード）」、「dim」を文字として足した「減三和音（ディミニッシュ・コード）」等様々な種類があり、この表記通りに「コードネーム」として和音を奏でられれば、和音の幅が広がり、曲の響きがよりいっそう豊かな広がりが出てくる。しかし「音楽理論」として「音楽」を苦手になっている学生や初歩的段階の学生についてはやや高度で困難な内容となるため、文字として足された部分を割愛してしまい、いわゆる〈表5〉の「長三和音（メイジャー・コード）」「短三和音（マイナー・コード）」のみで和音を演奏しても良いと考える。それでも和音は立派に成立し、「コードネーム」による伴奏は成り立つので曲の進行には何の問題も無い。その「コード奏法」についての理解度が上がっていけば、様々な種類の「コードネーム」を理解し用いて伴奏付けを行えば、より良い響きを感じることが出来るであろう。

4. おわりに

本論では保育士・幼稚園教諭養成系において学ぶ「音楽理論」としていくつもの項目の中から、以上の4つの項目について、最低限学生が理解すべき基礎的・基本的内容の授業展開を取り上げたが、これは筆者が実際に行っている「音楽理論」の授業内容の中でも、受講学生に保育現場でより実践的に使える知識として、そしてより理解度を上げて欲しいと考えている内容でもある。もちろん断片的に項目を挙げて並べた訳であり、学生が学ばなければならない項目と順序だてて理解しなければならない項目も、本論で述べた以外にもたくさんあり、そのことについて保育士・幼稚園教諭養成系で「音楽理論」を担当する教員は日々授業展開について研究しなければならないと感じる。だが、やはり「音楽」を苦手になっている学生や初歩的段階の学生が「音楽理論」を理解・習得することは容易ではないという課題をいつも抱えてしまうことは事実である。

さらに、一斉授業の講義として行う限り、「音楽理論」に精通・習熟している学生も存在する訳で、学生全員に向けて同じ達成感を持たせるのは困難である。そこで「音楽理論」に精通・習熟している学生が、自らの理解度の確認をしながら「音楽」を苦手になっている学生や初歩的段階の学生に対して援助する形を取って、お互いを伸ばしていく授業形式を考えていくことも必要であろう。

全ては、子どもが「歌」に親しみ、楽しみ、「歌」から色々なことを学ぶために、さらには保育現場から「歌」がたくさん聞こえてくるように、「歌」が子どもから失われることが無いようにするためという、保育者が日々行わなければならない職務に通じているのである。そのため、保育士・幼稚園教諭養成系の教員としてこれからも少しでも「音楽理論」についての理解度を上げる授業展開を考えていきたいと思う。

5. 参考・引用文献

- 小林美実 監修 井戸和秀 編 『こどものうた 100』(チャイルド本社)
- 『ミッキーといっしょ はじめての楽典ブック』
(ヤマハミュージックメディアコーポレーション)
- 熊谷周子・諸田明子 共著 『音楽理論ワークブック』(ドレミ楽譜出版社)